秋田駒ケ岳

秋田駒ケ岳は、秋田県南部にある奥羽山脈の一部の山々の総称で、一番高い1,637メートルの男女岳（おなめだけ）、男岳（おだけ）、女岳（めだけ）からなります。秋田県の最高峰である秋田駒ケ岳は、 乳頭山と並び、十和田八幡平国立公園の南側に位置する山々の中では屈指の景色とされています。

多くの高山植物が生育する秋田駒ケ岳は、北日本有数の高山植物の宝庫として広く知られています。6月中旬から8月中旬にかけて、ヒナザクラ、チングルマ、スミレ、濃いピンク色のコマクサなどの数百種の花が咲き誇ります。9月下旬から10月上旬にかけては、燃えるような紅葉が主役になります。

また、秋田駒ケ岳は人気の登山地でもあります。秋田駒ケ岳情報センター、駒ヶ岳火山防災ステーション、自然ふれあい温泉館のあるアルパこまくさから駒ヶ岳八合目の駅に向かうバスが定期的に出ています。そこから少し歩いて頂上まで登れば、鳥海山と岩手山、そして青い田沢湖を眼下に望むパノラマの景色が見られます。

乳頭山に向けて駒ヶ岳を縦走するルートをはじめとして、山の縦横に走る本格的な登山コースも選べます。1970年代以降、目立った火山活動はありませんが、登山の際は秋田駒ケ岳が活火山であることに留意し、出発前に秋田駒ヶ岳情報センターで現在の火山活動のレベルを確認することが重要です。